



南町小だより

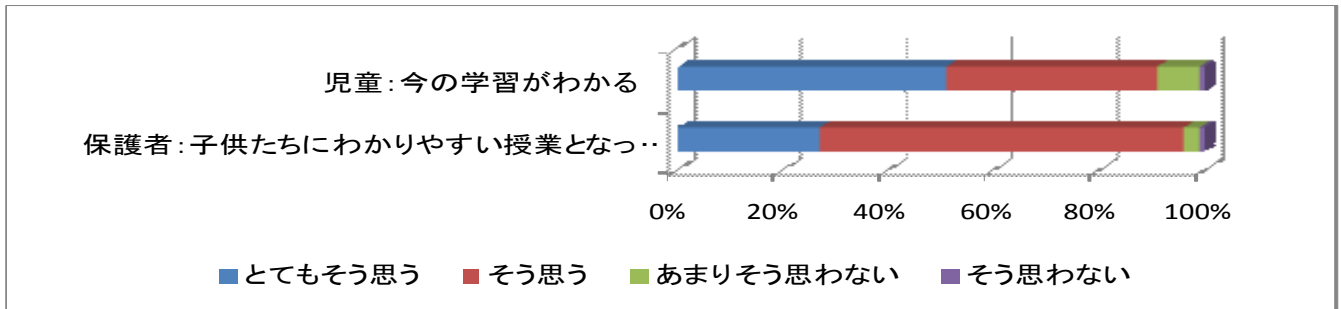
つよく かしく あたたかく

平成29年 2月28日

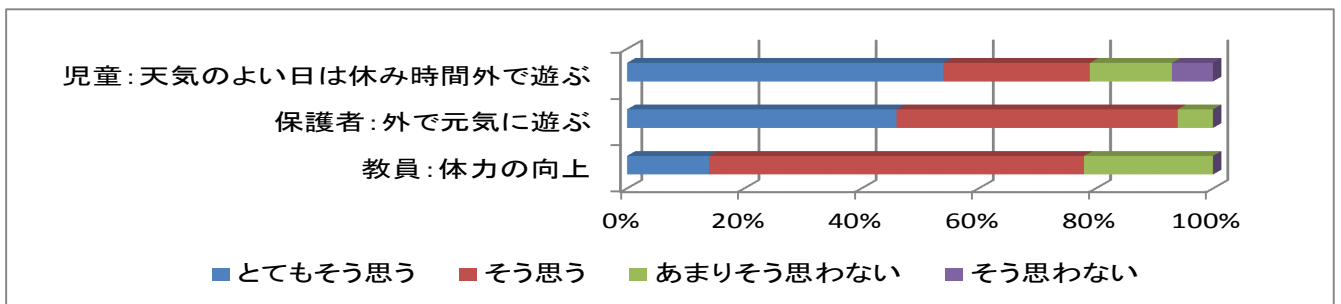
校長 福田 俊彦

平成28年度 学校評価のまとめ

<学習について>



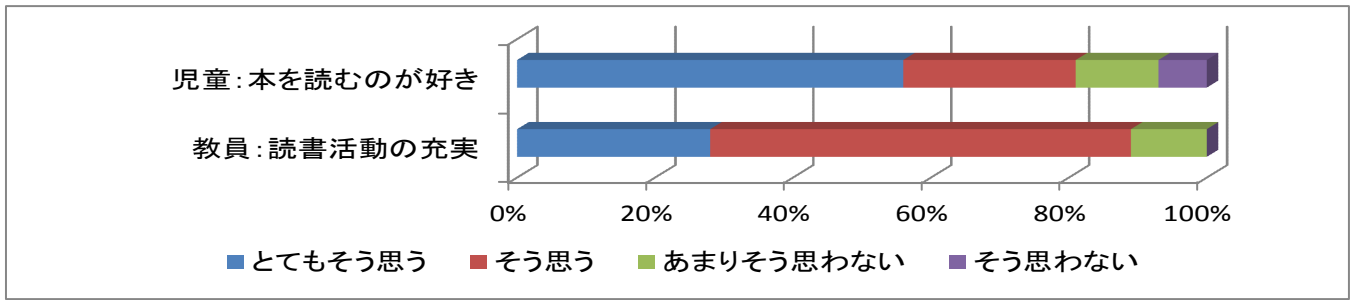
今年度も、学校では「ねらいを明確にもち児童に示す授業」「1単位時間の展開が分かる板書とノート指導」「児童が戸惑わない発問の工夫」「振り返りをポイントとした授業」を重点にして授業改善を進めてきました。保護者アンケートの「子供たちにわかりやすい授業となっていますか」という問いに「とてもそう思う・そう思う」の割合が昨年度より5ポイント増え96%となっています。児童の「授業がわかる」という問いに「とてもそう思う・そう思う」と答えた割合も91%と9割を超えました。これからも児童にとって分かりやすい授業を行うため、先に示した点を意識しながら授業を進めて参ります。また、新しい学習指導要領で大切にされるアクティブラーニングを視野に入れ、子供が主体的に学習に取り組む場、対話的な学習の場を意図的、計画的に設け、深い学びへと導く指導を行っていきます。



<体力の向上>

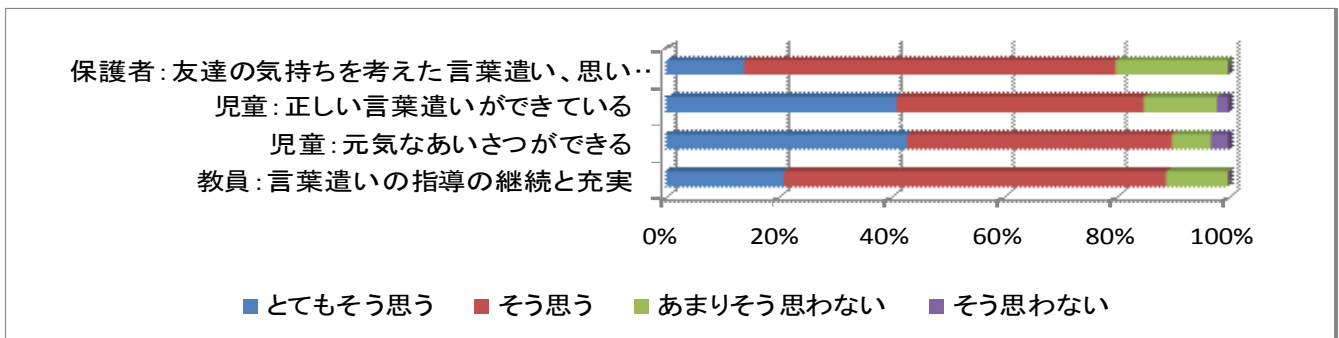
「外で元気に遊ぶ」という質問に「とてもそう思う・そう思う」と答えた保護者は94%、教員の体力向上の意識は78%、児童の「天気の良い日は休み時間外で遊ぶ」は78%と、ともに昨年とほぼ同様の結果となりました。今年度も体力向上に向け、ふれあい班遊びやクラス遊び等を意図的、計画的に休み時間に取り入れ、運動する時間を多くしてきました。しかし、体力テストの結果を見ると、依然として柔軟性や走力に課題が見られます。「休み時間等は元気に外で遊び、体育の授業を含め、体力向上に力を入れてほしいです」との意見もいただきました。授業で、準備運動や体ほぐしの運動を工夫したり、走る運動を継続して行ったりすることで体力向上に努めて参ります。さらに、来年度から足育週間を設け、子供たちの体力向上に対する意識を高めていきたいと考えています。また、体を動かすもとなる体作りのためには睡眠や栄養も欠かせません。児童アンケートによると、3年生以上の約半数が10時以降に寝ています。朝食を食べない子供も約4%います。「早起き・早寝・朝ご飯」の習慣作りにご家庭でもご協力ください。

<読書活動>



「本を読むのが好き。」との質問に「とてもそう思う・そう思う」と答えた児童は昨年度とほぼ同様の81%でしたが、教員の読書活動への取組の意識も肯定的な意見は89%で昨年度より6ポイント低くなっています。今年度は読書週間の期間を1週間のばし2週間とし、子供が読書に浸る時間を増やしました。また、この期間の「お話会」(低学年)や「本の探検ラリー」(中学年)、「ブックトーク」(高学年)も子供たちに定着しています。今後は、これまでの取組を継続、発展させることはもちろんのこと、子供が読書に親しむための新たな試みが必要であると考えます。読書カードを工夫し、読んだページ数を記録するなどの日常的な取組の充実を図ると共に引き続き学校開放図書や区立図書館との連携を深めて、学校図書館や学級文庫の充実にも努めていきます。

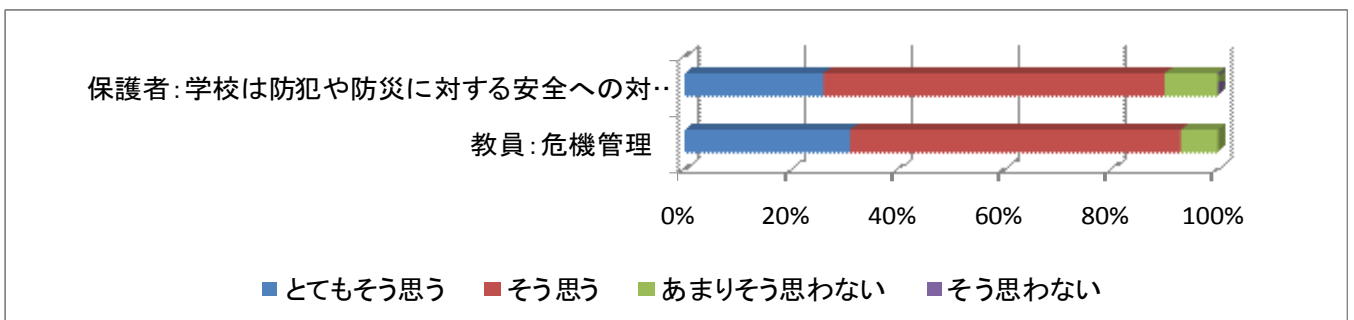
<豊かな心の育成(挨拶・言葉遣い)>



児童アンケートでは「正しい言葉遣いができている」の質問に対する肯定的な回答が85%、教員アンケートでの「言葉遣いの指導の継続と充実」に対しては89%と昨年度とほぼ同様の結果でしたが、保護者アンケートで「友達の気持ちを考えた言葉遣い、思いやり等ができる」の質問への肯定的な回答が80%と昨年度より4ポイント増加しました。今後も、子供と教師、子供と子供との関わりの中で、心温まる言葉遣い、相手意識、目的意識を高める活動を励行する指導を継続して行うと共に子供が子供から学ぶ場を適切に設けていきます。

挨拶については、保護者の方から「校内であいさつをされたら返してほしいと思います。自分からあいさつをするのは難しくても返すのはしやすいかと思うので。」との意見もいただきました。児童アンケートでは、90%の子供たちが「元気なあいさつができる。」と答えており、子供と保護者の考えのずれが見られます。校内では、決まった時や場所だけでなく、いつでも気持ちよい挨拶ができるように子供の意識を高める指導を行っていきます。

<防犯・防災>



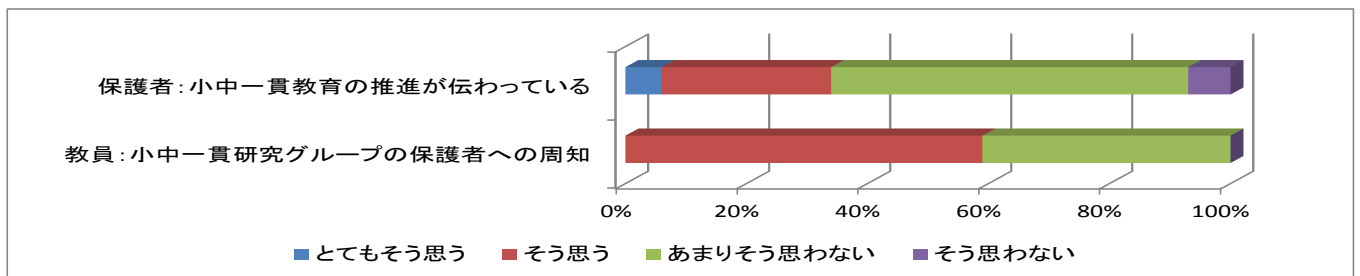
防犯・防災に対する質問に対して、肯定的に答えた割合は、保護者が90%、教員が93%と高い結果となりました。

防犯については、不審者を学校の敷地に入れないことを第一に考え、今年度も「通ったら門を閉める」「東と西の昇降口の扉を閉める」「校内で会った方に声をかける」等を徹底して行ってきました。今では、1年生でも重いさぎ門をしっかりと閉める姿が見られます。登下校時にまだペンギン門が開いていることがありますので、今後の課題として取り組んで参ります。また、安全安心ボランティアの活動やPTAの防犯パトロールをしっかりと行っていたことに感謝いたします。今後も保護者、地域の方々にご協力いただきながら、防犯対策を進めていきたいと思っております。

防災については、「自分の命は自分で守る」ことを繰り返し話し、実践できるようにしていきます。そのためには、継続して指導する中で確かな判断力を子供たちに身に付けさせなくてはなりません。様々な場面を想定した避難訓練、毎月の安全指導等の充実を図っていきます。

また、「ペンギン門から信行寺へむかう道路から坂道にかけて道を広がって歩いたり、急に走り出している子供がいて危険だと思いました。」との意見をいただきました。道路を斜め横断する姿も見られます。「自分の命は自分で守る」ことのひとつとして、交通安全への意識向上にも力を入れていきます。

<小中一貫教育の推進>



保護者対象のアンケートで「小中一貫教育の学校の取組が分かりやすく伝わっていますか」という問いに対し、「とてもそう思う・そう思う」と答えた割合は34%で、昨年度に比べ4ポイント下がりました。また、実際に小中連携教育を進めている教員も、保護者への周知ができているという回答が59%にとどまりました。

南町小学校は、向山小学校と共に開進第二中学校グループとして9年間を見通した児童生徒の育成に向け、「人権教育カリキュラムの作成・実施」・「家庭学習の充実」・「児童生徒交流」の3点を中心に連携を進めています。今年度は、開進第二中学校の「思いやり宣言」をもとに代表委員会が「南町小思いやり宣言」を作成し、開進第二中学校にも周知しました。しかし、保護者や地域の皆様に対して、その活動や成果をまだ十分に伝えられていないことが明らかになりました。「小中一貫教育を進めていることは分かるのですが、具体的にどのようなことをしているのかが分かりません。」との保護者の意見も寄せられています。今後は、実践した内容について、ホームページや学校だよりの他校内掲示板にコーナーを設けてお知らせしていきたいと思っております。

★学校評議員の方から★

保護者や児童、教員が行った学校評価の結果について、学校評議員会を開き、ご意見をいただきました。

○学校生活について…

「学校が楽しいと思えない子が12%いることが気になる。」との意見がありました。子供が学校が楽しいと思えるためには、一人一人の子供が「存在感、所属感、充実感」を実感できるようにすることが大切であると考えます。そのために、「子供が子供をはくぐむ」「子供が生活を創る」「あこがれの6年生をそだてる」教育活動を推進していきます。また、「子供たちの中で遊び方が分からないという実態があるので、育成の活動の中で教えている。」との意見もありました。ふれあい班遊びやクラス遊び等を充実させ、遊びの幅を広げると共に子供同士の温かな人間関係作りに力を入れていきたいと考えます。

○体力について…

『「天気の良い日は、休み時間に外で遊んでいる。」と肯定的に答えている児童の割合が低いことが気になる。』『持久走大会は、体力向上によいと思う。』『骨折が多いと聞いたが、骨折を防ぐには、柔軟性を高めることが大切である。』との意見がありました。引き続きクラス遊びを積極的に行ったり、なわとび週間や持久走週間等全校で運動に取り組む環境を作ったりするなどして、外で元気よく遊ぶ習慣作りに力を入れていきます。

また体力と関連して、「児童のアンケートの中で朝ご飯を食べない子が約4%いることが気になる。」との意見もありました。「早起き・早寝・朝ご飯」の規則正しい生活習慣確立のため、今後も実態調査を行って実態を明らかにし、家庭と連携して進めていきたいと考えます。ご協力をよろしくお願いいたします。

○読書活動について…

『ネットとの関係で本を読む機会が少なくなっていく傾向にあるので、「本を読むのが好きだ。」という児童を増加させてほしい。』との意見がありました。今年度は、学校図書館支援員が配置され、掲示物等を工夫し、図書紹介も積極的に行いました。今後も読書環境の充実に力を入れていきます。

○あいさつについて…

『アンケートでは、9割の児童が「元気なあいさつができる。」と肯定的に答えているが、学校公開日の校門でのあいさつの様子を見る限りでは、気持ちのよいあいさつはこれからだと感じる。』という意見をいただきました。あいさつについては、週の生活目標に取り上げたり、教師から進んであいさつをしたりするなど重点として取り組んできましたが、個人差もありまだ十分とは言えません。今後も指導の重点として取り組み、「元気なあいさつができる児童」の育成に力を注いでいきます。

○安全対策について…

「携帯を活用するためか中学1年生でも自宅の住所、電話番号、家族構成を言えない子がいる。小学校卒業までに言えるようにしたい。」「ハンドボールゴールでの事故があったが、毎週月曜日に安全点検をするなどの体制を整えてほしい。」との意見がありました。自宅の住所、電話番号は緊急時に大切な情報となります。子供たちがしっかり言えるようにご家庭でのご協力をお願いします。また、安全対策につきましては、月1回全教職員で分担して安全点検をしています。それだけでなく、毎週月曜日に安全点検をするなど日常的な安全管理に力を入れていきます。

○小中一貫教育について…

『開進第二中学校の「思いやり宣言」をもとに今年度南町小学校でも「南町小思いやり宣言」を作ったのはよかった。』との意見がありました。この「南町小思いやり宣言」は生徒会を通じて開進第二中学校に伝えました。連携を深めるためにはこのような双方向の活動が大切だと考えます。今後も開進第二中学校と連携した活動を工夫し、小中9年間を見通した教育活動を充実させていきます。その取組については、保護者や地域の皆様に学校だよりやホームページ、校内掲示等でしっかり紹介し、お知らせしていきます。

○SNSについて…

『情報モラル講習会での講師の子供たちへの質問で、ほぼ全員の子供が「DSを持っている。」に手を挙げたが、「SNS南町小ルール家庭ルールを作った。」に手を挙げた子供は半分だった。SNSに関して家庭の関心が薄いのが問題である。』との意見がありました。今年度「SNS練馬区ルール」をもとに「SNS南町小ルール」を定め、ご家庭にお知らせしました。さらに、夏季休業中と冬季休業中に家庭で話し合い、その家庭ルールを学校に報告していただきました。結果を見ると夏季休業に比べ冬季休業でのSNSに関しての関心は高まってきています。関心を高めていくためには、継続的な取組も大切です。今後も長期休業中におけるルールの話し合い・報告を続けていきたいと考えています。SNSのルール、マナーを含めた児童健全育成ためには家庭の協力が必要不可欠です。学校、家庭、地域で連携を図りながら進めていきたいと思えます。

○その他…

『「危ないからやらせない。」ではなく、安全にできる環境を大人が作る大切だと思う。』『学校のホームページを見ている保護者も多いので、ホームページの更新を積極的に行ってほしい。』『児童アンケートで「学校のことをおうちの人に話している。」と答えている割合が低い、ジュニアリーダーの活動の中で、家庭で家の人と話すように指導している。』との意見もいただきました。家庭・地域との連携を図りながら、ひとつひとつ課題改善に向けて全力で取り組んで参ります。